

細川幽斎・八条宮智仁親王 古今伝授略年表

2021.07.18【改訂】

	1571	2月5日～7日、大原野勝持寺で千句興行【勝持寺文書】
	〃	10月14日、信長より勝龍寺城普請の人夫賦課が認められる【米田家文書】
元龜3	1572	9月、勝龍寺城にて紹巴の源氏物語講釈【常盤松文庫本「源氏物語」注釈】
	〃	12月6日、三条西実澄に古今伝授の誓状を提出【桂宮文書】 実澄62歳・藤孝39歳
元龜4	1573	6月5日、勝龍寺城天主で紹巴と両吟連歌【橋本家文書】
	〃	7月10日、信長より西岡の一職支配を与えられる【細川家文書】
	〃	7月18日、槇島城の足利義昭降伏 8月～9月、西岡各所へ「長岡藤孝」の安堵状を発給
天正2	1574	2月、多聞山城に当番として入城し、実澄から古今講釈をうける【春日大社辰市家記】
	〃	3月7～9日、春日社西屋にて講釈修了【天理大学図書館蔵「古今和歌集聞書」】
	〃	6月17・18日、勝龍寺城天主において、実澄から切紙伝授【桂宮文書】
天正3	1575	10月、物集女疎入を勝龍寺城にて殺害【綿考輯録】
天正4	1576	10月12日、三条西実枝(実澄を改名)から古今伝授証明状をうける【桂宮文書】
	〃	10月27日、吉田兼見、勝龍寺城の藤孝に「日本書紀」の注解を持参【兼見卿記】
天正5	1577	4月8日、明智光秀の亀山城初興行連歌に出座【玄旨公御連歌】
	〃	12月11日、勝龍寺城新造御殿にて連歌興行【連歌総目録】
天正6	1578	正月朔日、安土城にて越年試筆【玄旨公御連歌】
	〃	6月3日、播州刀田山鶴林寺の陣にて一座【玄旨公御連歌】
天正7	1579	1月8日、誠仁親王の第六皇子として智仁親王誕生
	〃	6月18日、三条西公国へ古今伝授開始【桂宮文書】
天正8	1580	8月4日、信長より丹後国を与えられる
天正9	1581	1月6日、坂本城にて光秀興行の連歌に出座【兼見卿記】
	〃	4月12日、天橋立において連歌【天王寺屋茶会記録】
天正10	1582	6月2日、本能寺の変 6月13日、山崎の合戦 7月15日、信長追悼懐旧連歌
天正14	1586	4月1日、秀吉より幽斎へ、勝龍寺・神足等3000石が安堵される【細川家文書】
天正17	1589	12月、八条宮家が創設される
天正18	1590	12月、智仁親王、母と共に新御殿へ移徒。翌年親王宣下【兼見卿記】
文禄5	1596	2月、智仁親王に「伊勢物語」を講釈【兼見卿記】
慶長5	1600	2月16日、徳川家康が、幽斎の智仁親王への古今伝授を伝達する【桂宮文書】
	〃	3月19日、智仁親王が幽斎に古今伝授の誓状を提出する【桂宮文書】 幽斎67歳・智仁22歳
	〃	5月29日、幽斎出陣用意のため帰国 7月17日、ガラシャ自害 7月27日、田辺城総攻撃
	〃	7月29日、死を覚悟の幽斎が、智仁親王に古今伝授証明状を授ける【桂宮文書】
	〃	9月12日、幽斎が田辺城を開城 9月15日、関ヶ原の合戦
慶長6	1601	京へ戻った幽斎が、智仁親王へ古今伝授を再開 11月23日、八条殿にて連歌
慶長7	1602	8月14日、幽斎直々の「古今伝授座敷模様」筆者 11月2日、「聞書」清書本に幽斎加判
慶長10	1605	今出川御門の南東に屋敷造替 翌年11月、新邸に移る
慶長14	1609	幽斎が八条宮邸を訪問 智仁親王が幽斎のようすを「老耄之躰」と記す【桂宮文書】
慶長15	1610	幽斎が三条車屋町の自邸で死去
		智仁親王追悼歌「ならひとは思いなされぬ歎きかな さらぬ別れの定あるとも」【綿考輯録】
元和5	1619	12月6日、智忠親王誕生
		このころから、智仁親王が下桂に茶屋を造営する
寛永2	1625	12月14日、智仁親王から後水尾天皇への古今伝授が修了する【桂宮文書】
寛永6	1629	4月7日 智仁親王が死去
寛永12	1635	4月 智忠親王が開田天満宮拝殿へ三十六歌仙額を奉納【長岡天満宮蔵】
寛永15	1638	智忠親王が開田に大池をつくり、学問所を移築する(開田御茶屋の造営)【桂宮日記】

足利義昭

織田信長

豊臣秀吉

徳川家康